今、備えのとき

―変わる防災、変わらない防災―

災害から命を守るためには、災害発生の危険度を示す防災気象情報を正しく理解することが大切です。今回の特集では、新しい防災気象情報と災害時に取るべき適切な行動などについて考えます。

問い合わせ　地域づくり課

梅雨入りが近づいてきました。ここ数年、地球温暖化の影響もあり、災害の激甚化の傾向はますます顕著になっています。九州北部で発生した令和7年8月9日からの大雨の中心は、岡垣町や宗像市でした。当初の予想より早い時間から激しい雨が何度も繰り返し降り、線状降水帯も発生しました。宗像市にある気象庁の地域気象観測所のデータでは、1日の降水量が308ミリと観測史上1位を更新し、総雨量は4日間で615・5ミリに達するなど、予想をはるかに超える雨となりました。

これまで比較的災害が少ないとされてきた岡垣町でも、土砂崩れにより交通が遮断される地区があり、大きな被害を受けました。また、近隣の自治体では人命が失われるなど、これまでとは大きく異なる状況でした。こうした出来事を「よそ事」とせず、身近なものとして受け止め、これから迎える梅雨に向けて、日頃の備えや災害時の行動について改めて考える必要があります。

災害から命を守るために、国・県や町では情報発信や体制の強化などの取り組みを進めています。行政、地域、住民がそれぞれの立場で備えを進め、互いに支え合いながら防災力を高めていくことが重要です。

令和7年8月の大雨による岡垣町の被害状況

家屋被害 16件　河川・水路被害 95件　山林等被害 22件

道路被害 78件　その他農地、ため池、公共施設等被害 22件　災害復旧に要する費用 約4億円

変わる防災から守るには

learn 知る

NEW 令和8年5月29日㈮からの防災気象情報

災害時に適切な行動を取るためには、防災気象情報を正しく理解しておくことが重要です。防災気象情報とは、大雨や台風の時に、災害発生の危険度を示すために気象庁などから発表される情報で、「大雨注意報」や「大雨警報」などがこれに当たります。

これまでの防災気象情報は、名称や警戒レベルとの関係が分かりにくいといった課題がありました。このため、令和8年5月29日㈮からは、危険度に応じたレベルごとに情報が整理され、分かりやすくなります。

「まだ大丈夫」と思っている間に、状況が急激に悪化することもあります。いざというときに適切な行動が取れるよう、正しい情報を知り、早めの判断と行動につなげましょう。

【新しい防災気象情報】

	河川氾濫	大　雨	土砂災害	高　潮	
5	レベル5 氾濫特別警報	レベル5 大雨特別警報	レベル5 土砂災害特別警報	レベル5 高潮特別警報	黒
4	レベル4 氾濫危険警報	レベル4 大雨危険警報	レベル4 土砂災害危険警報	レベル4 高潮危険警報	紫
3	レベル3 氾濫警報	レベル3 大雨警報	レベル3 土砂災害警報	レベル3 高潮警報	赤
2	レベル2 氾濫注意報	レベル2 大雨注意報	レベル2 土砂災害注意報	レベル2 高潮注意報	黄
1	早期注意情報				白

押さえておきたい変更ポイント

警報・注意報の情報名にレベルが付きます

例えば「大雨警報」は「レベル3大雨警報」と表示され、危険度が一目で分かるようになります。
※数字が大きいほど危険度が高くなります。

レベルごとの名称が統一されます

全ての災害区分で「警報」「危険警報」など、レベルごとに名称が統一され、状況に応じた適切な行動が取りやすくなります。

河川の氾濫に関する情報が整理されます

「河川氾濫」は遠賀川などの大規模な河川に対して発表されます。矢矧(やはぎ)川や汐入川など町内の中小河川の増水や氾濫の恐れは「大雨」の区分で判断しましょう。

詳しくは、気象庁ホームページをチェック！

変わらない防災

災害から命を守るため

日々の積み重ねを大切に

備える

prepare

日頃の備えは、家庭での取り組みなどの「自助」が基本です。さらに、地域で支え合う「共助」も欠かせません。「公助」についても町では引き続き取り組んでいきます。

これらは「変わらない防災」として大切な要素であり、今後も継続し、さらに充実させていくことが必要です。

自助

- 備蓄品や非常持ち出し品の準備
- 災害情報の入手方法の確認
- 危険な場所や避難経路の確認
- 災害時の連絡方法の取り決め

など

共助

- 地域としての備蓄の準備
- 自治区への加入と自主防災組織での活動
- 防災訓練
- 要配慮者への支援方法の取り決め

など

公助

- 備蓄の拡充
- 自主防災組織の立ち上げや訓練の支援
- 町公式ホームページや SNS などでの情報伝達手段の整備

など

その判断が命を守る

行動する

act

町では、気象台などと連携し、警戒レベル3で「高齢者等避難」、警戒レベル4で「避難指示」を基準に、時間帯も考慮しながら、対象区域を絞って発令します。警戒レベル3や4が発表されたときは、町からの避難情報に十分注意し、早めの行動を心がけてください。特に、夜間は移動が危険になるため、明るいうちに避難することを意識しましょう。

防災気象情報は新しくなりますが、避難行動の重要性は変わりません。新しい防災気象情報に対応しながら、状況に応じて適切に判断し、避難行動を確実に実行することが大切です。

【警戒レベルごとのとるべき行動】

5	レベル5　特別警報	命の危険、直ちに安全確保！
《警戒レベル4までに危険な場所から必ず避難！》		
4	レベル4　危険警報	危険な場所から全員避難
3	レベル3　警報	避難に時間を要する人は早めに避難、避難の準備など
2	レベル2　注意報	避難行動を確認（避難場所や避難ルート、避難のタイミングなど）
1	早期注意情報	災害への心構えを高める

そのとき、動けますか

防災に関する情報を正しく知ること、日頃から備えること、そしていざというときに行動すること。この3つがそろってはじめて、命を守る行動につながります。どれか一つではなく、全てが大切です。この機会に、防災について改めて考えてみてください。今こそ備えのときです。